

平成19年度事業報告書

(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構

[基本方針]

社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構の役割と使命は、医学・歯学等の医療系大学において、臨床参加型臨床実習に臨む学生の態度・技能・知識についての標準評価試験を実施し、学生の段階から医療人としての適性と能力を全国的に一定水準に確保することにある。このために、医学・歯学等の専門領域ごとに大学・学部等間で共通の評価試験を実施するとともに、評価基準と成績の向上を目指すことにより、広く一般社会の理解と協力を得ながら、国際的にも遜色のない優れた医療人の育成に貢献しようとするものである。

この基本方針を達成するため、下記事業を実施した。

[主な事業]

1. 共用試験CBT関連事業

(1) 平成14年度からの共用試験試行時から平成18年度までに新たに追加、蓄積されたプール問題を用いて、2007年度後期(平成19年6月～9月)共用試験(医学系5大学、歯学系20大学)、2008年度前期(平成19年12月～平成20年3月)共用試験(医学系78大学、歯学系8大学)を実施した。

また、実施にあたっては、十分な事前説明を行い、本機構からモニターを派遣し、適正な試験の実施を確認した。

(2) 試験問題と試験成績は本機構において厳重に管理し、詳細な統計分析を行うための組織体制を整備し、学生の成績は各大学ごとに返却するとともに全体成績及び分析結果を公表した。

(3) プール問題の蓄積と入れ替えのために各大学に新規問題作成を依頼し、大学作成新規問題及び機構作成新規問題のブラッシュアップ作業(医学系12日間延べ746名参加、歯学系11日間延べ306名参加)を実施した。これらの新規問題は、2008年度前期試験に出題した。

2007年度試験実施後に試験問題としての適性度を評価し、プール問題として継続的に蓄積を行った。

また、プール問題の管理を円滑に行うためためのシステムを整備した。

2. 共用試験OSCE関連事業

(1) 実施済みの試験結果を参考に学習評価項目・評価表・評価基準等の標準化を進め、実施のための組織体制及びシステムを整備した。

また、各大学の実施体制の改善を支援するとともに、実施日程を調整し、実施に関する大学間の協力を支援した。

- (2) 各大学から提出された試験成績をもとに全体の成績及び統計処理結果を公表した。

3. 調査研究・開発事業

(1) 調査研究事業

- ① 共用試験は、医学・歯学教育モデル・コア・カリキュラムに準拠しており、CBT問題作成及びOSCE評価基準作成にあたって、モデル・コア・カリキュラムの導入状況、臨床実習の診療参加型への転換状況を把握するための調査方法を検討した。
また、モデル・コア・カリキュラムの改訂に伴うCBT、OSCEの対応について検討し、文部科学省が構築する医学・歯学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に関する恒常的な体制に協力した。
- ② CBT試験問題の形式と内容及びOSCE課題と評価方法等の改善のための調査・研究を各担当小委員会で継続して実施した。
- ③ CBTプール問題の管理方法を検討するため、法制度等の変更に対応するための方法論について調査・研究を実施した。
- ④ OSCEの課題に対する受験生の評点解析から各大学における事前の技能・態度教育の実施状況を調査する方法についての検討を開始した。

(2) 開発事業

- ① CBT問題作成及び問題修正ソフト、システムチェックソフト、試験実施ソフト、成績管理ソフト等についての継続的な改善を行った。
また、CBTについてはランダム出題による不公平を解消するために難易度調整システム改善のための研究開発を行った。
- ② 各大学におけるCBT実施用サーバー及び端末等の更新状況を調査し、全大学で円滑にCBTを実施するために必要な実施システムの改修を行った。
- ③ CBT及びOSCEの試験成績を統合して一括管理するシステムの要件定義を継続して行った。
- ④ CBT実施システム検証のため、特殊受験環境でのプレテストを実施した。
- ⑤ 将来にわたって共用試験を安全かつ簡便に実施し、成績の管理・返却を迅速に行うための電子化システムの開発を開始した。
- ⑥ OSCE課題の作成、管理、出題状況及び利用状況等を管理するためのシステムの第一段階としてOSCE課題管理システムを構築した。

4. 研修・出版・広報活動事業

(1) 研修事業

- ① 安定的にCBTを実施するため、良質な試験問題のプールとその継続的な入れ替えが必要なことから大学教員の問題作成能力の向上を目指して問題作成ワークショップ（医学系3回、計128名参加、歯学系1回28名参加）を開催した。
また、各大学で開催している問題作成講習会等（歯学系12大学）に講師として本機構から委員を派遣した。
- ② OSCEの標準的な評価を行うためには、一定水準のOSCE評価者の育成が不可欠で

あることからOSCE評価者講習会等（医学系3回，計812名参加，歯学系3回，計168名参加）を開催した。

③ 共用試験の円滑な実施のための全国説明会（医学系1回145名参加，歯学系1回56名参加）を開催した。

(2) 出版・広報活動事業

① 共用試験の導入に至った経緯，意義，経過を含めた「共用試験」案内冊子の改訂版を発行し，学生，医療系大学の学部・専攻科等の教職員及び医療関連機関や一般社会等へ配布した。

② 上記「共用試験」第5版（平成19年版）では，教職員の理解と学生の学習の参考とするためにCBT例題の内容を充実させた。また，OSCEへの理解を深めるため「学習・評価項目」及び「課題と学習目標」を掲載した。

③ 共用試験についての社会の理解を一層高めるために，学生，一般向けのわかりやすいQ&A冊子を印刷・配布した。なお，公正な共用試験実施のために，学生への共用試験CBT問題，OSCE課題についての注意事項を徹底するようQ&Aに明記した。

④ 各大学にCBT問題作成を依頼するためにCBT問題作成マニュアル平成19年度版を発行した。

⑤ インターネット・ホームページURL <http://www.cato.umin.jp>を通じ，研究資料収集や事業活動の情報公開・提供を行った。

5. 国際協力事業

(1) 平成17年度に日本で開催された日英医学教育会議2005における検討結果に基づき，大学間の共通評価試験について，日英間で具体的な情報交換を行うための作業計画の検討を開始した。さらに，諸外国との間で大学間の共通評価試験についての情報収集準備を開始した。

(2) 国際的な情報発信のために，共用試験の前提となっているモデル・コア・カリキュラム英文化の事前準備を検討し，モデル・コア・カリキュラムの改訂の進捗状況を勘案しつつ進めることとした。

6. 社団法人組織・活動の基盤強化をはかる事業展開

前年度に引き続き，社団法人としての組織・活動の基盤強化を図るために，理事会を核とし，理事会の下部機関として次の委員会を設け，活動した。

(1) 共用試験実施委員会，(2) 共用試験事後評価解析委員会，(3) 共用試験制度・システム開発委員会，(4) 共用試験広報・推進委員会

7. その他

機構未加入の奥羽大学歯学部に対し，学生の適性と能力について一定水準を確保するため全国共通の標準評価試験を実施する機構の目的により教育的配慮及び学生の救済の見地から奥羽大学歯学部において共用試験特別実施（2月24日CBT，3月9日OSCE）を行った。

平成19年度 社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構会議録

| 月 日 | 会 議 等 | 議 事 |
|----------------|----------------|--|
| 19. 6. 11 (月) | 理事会 (機構会議室) | 議題 ① 理事長, 副理事長の選出について ② 平成18年度事業報告(案)について ③ 平成18年度収支決算(案)について ④ 就業規則の一部改正(案)について ⑤ 職員旅費支給基準一部改正(案)について ⑥ 専門部会の設置について |
| 19. 6. 18 (月) | 総会 (機構会議室) | 議題 ① 平成18年度事業報告(案)について ② 平成18年度収支決算(案)について |
| 19. 11. 27 (火) | 理事会 (機構会議室) | 議題 ① 事務局長の交替について |
| 20. 3. 10 (月) | 理事会 (機構会議室) | 議題 ① 役員の辞任について ② 職員の採用について ③ 職員給与規程の一部改正(案)について ④ 平成20年度事業計画(案)について ⑤ 平成20年度収支予算(案)について |
| 20. 3. 13 (木) | 総会 (機構会議室) | 議題 ① 平成20年度事業計画(案)について ② 平成20年度収支予算(案)について |